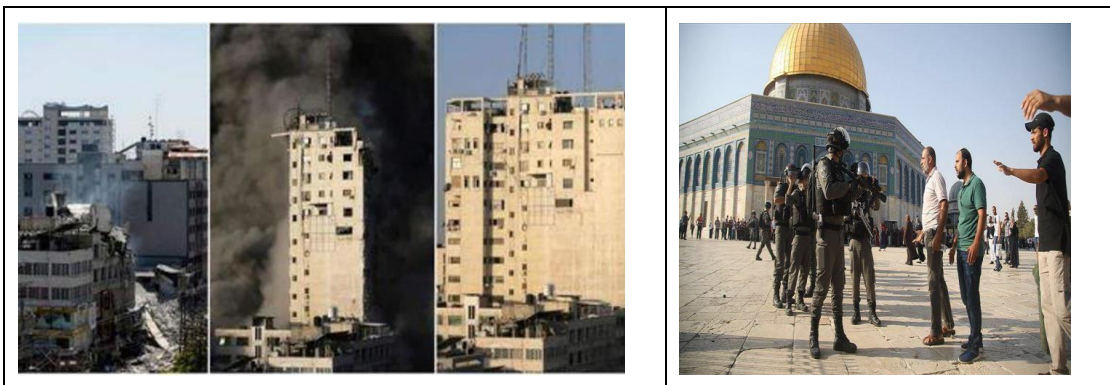


パレスチナが燃えている 占領に終止符を、パレスチナに解放を

パレスチナの危機的状況は悪化の一途をたどっており、いたるところに血の臭いと死が広がっています。パレスチナの聖地であるアル・アクサ・モスクやキリスト教会を攻撃しないよう、占領国家であるイスラエルに対して再三警告を送っていますが、これらの警告は真剣に受け止められていません。エルサレムのシェイク・ジャラ地区におけるパレスチナ人への暴力的な排除に加えて、イスラエルによる長期的な占領による抑圧、パレスチナのヨルダン溪谷の土地を併合しようとする試みは、トランプ大統領が国際的な正当性を侵害し、エルサレムをイスラエルの首都と認めると宣言し、大使館を開設した時に特に激化しました。また、イスラエル社会は、パレスチナ人の政治的権利を否定し、植民地化や違法な入植地の建設を支持する極右化の方向に進んでいます。さらに最近では、エルサレムに住むパレスチナ人が他のパレスチナ地域と同じように評議会選挙を行うことをイスラエル政府が拒否しました。



状況はエスカレートしていき、国際的にもパレスチナ側からも多数の警告が出されていたにもかかわらず、聖なる月であるラマダン中に、占領軍と入植者によるアル・アクサ・モスクへの残忍な抑圧と圧力が行われたのです。イスラエル右派の狂気、不条理、そして傲慢な行動が 1949 年停戦ラインであるグリーンラインの内側である、エルサレム、ガザ地区、ヨルダン川西岸のいずれにおいても、今回の事態の勃発につながっています。



現在、イスラエルや一部の欧米メディアは、イスラエルこそが被害者と報じ、本当の被害者であるパレスチナ人を死刑執行人にしようとしています。現在、イスラエルは大規模な戦争を行い、ガザの罪のない市民を爆撃しており、現在までに 174 人の殉教者（犠牲者（子供 47 人、女性 29 人を含む））と 1,200 人の負傷者が出ており、さらに多くの住宅や家屋を取り壊しています。このことは、ヨルダン川西岸地区の人々を憤慨させ、現在までに 13 人の死者と 750 人の負傷者が出ています。さらに、事態が深刻化して以来、エルサレムでは 600 人が逮捕されました。

一方で、ガザからイスラエルの各都市への爆撃により、現在までに 10 人が死亡、数十人が負傷しました（イスラエルの公式統計による）。今後、さらに状況が激化することは明白であり、欧米機関はイスラエル寄りの立場を取っているため、パレスチナ市民を守るために国際社会による緊急的な介入が必要となっています。パレスチナ人の政治的闘争の根源的な原因を解決し、ガザ地区の包囲を撤回すること、シェイク・ジャラの住民への弾圧と排除を永久に止めるために、国際社会はあらゆるイニシアティブを発揮すべきです。そして、パレスチナの聖地として尊重されるべきです。エルサレムはパレスチナ国家の首都であり、これは決して変えてはならないことです。また、エルサレムに住むパレスチナ人の民主的な選挙への参加も認められるべきです。これらの条件が揃わなければ、短期的にも長期的にも停戦はあり得ません。これは、国際的な正統性、国際法、そしてパレスチナ国家の独立に基づく永続的な平和への前哨戦なのです。

アルリーフ・フェアトレード社（パレスチナ農業復興委員会（PARC）のフェアトレード事業会社）

2021 年 5 月 16 日